

様式 C-7-2 (記入例)

自己評価報告書

平成22年 4月 15日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19529002

研究課題名 (和文) ポスト社会主義ユーラシア牧畜諸地域の動態にみる多様性と普遍性-人とモノの関係より

研究課題名 (英文) Comparative study on relationship between things and people in the dynamic state of post-socialist pastoralist societies in Eurasia

研究代表者

風戸 真理 (KAZATO MARI)

京都大学・地域研究統合情報センター・研究員

研究者番号：90452292

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学、グローバリゼーション、物づくり、伝統工芸、銀、鍛冶、ガラス

1. 研究計画の概要

ユーラシアのポスト社会主義諸国は、20世紀中に2度の体制変化、すなわち「社会主義化と社会主義から民主化・市場経済化への「移行」を経験した。社会主義は、歴史・文化・自然背景の多様な広大なユーラシアにおいて、壮大な統一イデオロギーのもとで展開された「もうひとつのグローバリゼーション」であったと申請者は考える。本研究はこの視点から社会主義／ポスト社会主義の時代を捉え直し、その地域的・文化的な多様性と普遍性を解明することを目指す。具体的には、ポスト社会主義ユーラシアにおけるモノの生産・流通・利用およびモノの所有関係に関する諸個人の経験と認識について微視的な視点から検討する。そのことを通して、ポスト社会主義という歴史的状況が各地域の社会と文化にどのような影響を与えたのか、そしてまた、社会主義と移行の理念と実践がいかにローカライズされてきたのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

ポスト社会主義ユーラシアの遊動生活者にとっての財とその所有をめぐる経験と認識について、貴金属と家畜に焦点をあてて検討する初年度には、モンゴル国の鍛冶師の技術と経営戦術研究の本格的なフィールドワークを開始し、カザフスタンと中国内蒙古自治区で予備調査をし、得られた資料の分析・整理を実施した。モンゴル国では貴金属装身具小売店の仕入先と、鍛冶師らの技術習得過程を聞き込み、伝統的な鍛金

技法による指輪制作の映像記録を撮った。内蒙古では、漢化の影響でモンゴルの銀製品の知識と製作技術の喪失状況と、モンゴル国からの鍛冶師の出稼ぎを発見した。カザフスタンでは伝統的な銀製品と装身具についての文献を収集した。以上は、社会主義／ポスト社会主義の時代とその地域的・文化的な多様性と普遍性を探る試みの第一歩である。

2年目は前年度の調査データの分析・整理と発表をおこなった。主に、モンゴル国の銀鍛冶師による伝統的な技法での指輪づくり記録を映像人類学的な映像民族誌として解釈、編集し、数度の学会(5月、京都大学)等で発表し、伝統工芸を研究する意味を考察した。これまでの研究成果を総括した単著『現代モンゴル遊牧民の民族誌』も発表した。多分野の読者を想定した論文の再構成作業を通してモンゴル地域と牧畜という生業の特性を再発見した。このさい研究成果の公開における写真資料利用の重要性を痛感し映像・写真資料を整理した。

3年目の平成21年度には、ポスト社会主義社会におけるモノの生産、利用のあり方を相対化するために、ユーラシアにおける考古学の成果を博物館収蔵資料と文献で把握するとともに、現代日本の物づくりの現場をフィールドワークすることで伝統的な技術の継承と革新について考察した。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

2009年5月に交通事故に遭い、後遺症のむち打ち症のため2009年度は週3回程度通院しており、今日に至るまで通院を続けています。このため、3年目は本格的な調査研究がおこなえなかったため。

4. 今後の研究の推進方策

個別の社会における人とモノとの関係の変化を探るため、モノに対する認識や行為に関するジェンダー、文化差、国家相違を比較検討する。とくに社会主義の前/中/後での変化に注目して、モノの生産・利用・価値づけについて歴史的に考察する。

研究方法の中心はフィールドワークと文献研究である。これまで調査してきた地域で銀等貴金属製品の生産組織や経営体制と、利用と継承の時代変化に関するデータ収集を継続する。また、移行期社会のチェコ、スロバキア、ルーマニア等でガラス製品の家内制手工業生産の調査を開始する。加えて、金銀製品やビーズの生産が一度も国家に統制されず、簡易技術の小規模経営で続けられている例としてトルコ、ガーナ、カメルーンを調査予定。日本国内では、世界的や工業技術集積地である東京や大阪での、家内制手工業や伝統工芸に注目する。とくに手工業の流通を支える地域経済と、伝統技術と工業的な生産様式との接合のしかたについて調査する。伝統工芸は消滅とブランド化の二極化が進む。一方「ご用聞き」の実践など人間関係を基盤とした地域の社会関係に埋め込まれた物づくりのあり方とその現代的な意味について解明したい。

分析方法は、銀装飾品の加工などの精緻な技術を分析するため観察と映像記録を重視する。映像分析には科学的映像記録の技術とその背景理論の習得が不可欠である。また金属加工や装身具の製作技術に関する科学知識と実践技術を習得したうえで、地域や個人のバリエーションを抽出する。

成果発表は『文化人類学研究』『季刊民族学』への投寄稿、学会、映画祭への映像作品の出品を予定している。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計2件)

- ① 風戸真理、「モンゴル国における土地私有化政策とローカルな実践-冬用キャンプ地の価値と権利をめぐる」『エコソフィア』20, pp. 81-96、(2008) 査読あり。
- ② Kazato, M. “Management and Evaluation of Livestock under Socialist Collectivization in Mongolia”, SUN and NAITO (eds.), In *ASAFAS Special Paper No.10*:

Mobility, Flexibility, and Potential of Nomadic Pastoralism in Eurasia and Africa, Kyoto: Nakanishi Printing, pp.53-62., (2007)、査読なし。

[学会発表] (計4件)

- ① 風戸真理「モンゴル牧畜社会における銀製品(口頭)」(第42回文化人類学会大会)2008年5月31日、京都大学。
- ② 風戸真理「モンゴル国の銀鍛冶師による指輪づくり(映像)」(同上)2008年6月1日、京都大学。
- ③ KAZATO, M. Women's Property in Mongolian Pastoral Society: Value of Silver Goods in Rural. The 16th Annual IAFFE Conference on Feminist Economics, in Bangkok, June 29-July 1, 2007.
- ④ KAZATO, M. “Reproductive Property” or “Immortal Property”? Livestock And Silver Goods In Mongolian Pastoral Society. The 6th Hawaii International Conference on Social Sciences, in Honolulu, May 29-June 3, 2007.

[図書] (計1件)

- ① 風戸真理『現代モンゴル遊牧民の民族誌』世界思想社、335頁、2009。